

令和4年度 アメリカ研修 個人報告書

20A129 三宅 梨也乃

私は令和5年2月21日から3月5日までアメリカ薬学研修のため、協定校である College of Pharmacy, Western University of Health Sciences(ウェスタン大学薬学部) に訪問した。アメリカの医療施設やドラッグストアも見学した。医療施設では現地の薬剤師から何をしている場所かどの様な事をしているかなどを学んだ。ドラッグストアでは日本とアメリカの OTC 薬の比較をし、薬ごとに各班でプレゼンテーションを行った。2週間の研修では日本とアメリカの薬剤師業務や医療制度を比較しながら多くのディスカッションやプレゼンテーションを通してより理解を深めた。特にこの研修で学んだ薬剤師の業務・役割についてまとめる。

アメリカの薬剤師について

アメリカでは薬剤師の他に Pharmacy technician (ファーマシーテクニシャン)が存在している。テクニシャンはピッキング・薬剤調整などの調剤業務を行い、薬剤師の助手的存在である。テクニシャンに比べ薬剤師は調剤よりも主に患者さんと向き合うスタイルである。また薬剤師は業種が多く、薬局薬剤師、病院薬剤師の中でも院内・臨床をもとに専門が細分化された業種がある。更に Clinical Coordinator、Informatics Pharmacist など業種が専門的に多岐にわたる。日本の薬剤師では行えない業務もあり、その例としてアメリカではフィジカルアセスメントができることと予防接種も扱える。今回の授業で実際にフィジカルアセスメントと予防接種の模擬としてオレンジに投与した。

フィジカルアセスメントでは頭、目、耳、鼻、喉について習い、実際に病院での診察と同じように道具を用いて体験した。日本の授業では体験出来ないことも行えた。

ワクチンについて薬剤師は投与することができ、薬学部生でも一定のトレーニングを受けることでワクチンを投与することが可能である。最近ではコロナワクチンを実際に投与しており、準備から投与まで行えるため完成した薬剤の運搬までの時間のカットもできる。またドラッグストアでもワクチン接種が可能である。日本の様に病院で医師に打ってもらっただけで無く、ドラッグストアでも薬剤師がワクチンを扱えることで住民も足を運びやすい環境となり、アメリカのワクチン接種率が高い理由につながると考えられる。実際に大変だったことは Dr.HATA から温度管理がとても苦労したと伺った。

図1. 予防接種の模擬体験



日本とアメリカの違いについて薬剤師の専門性の高さには変わりないがアメリカの薬剤師は役割がとても多いことと患者との関わりが圧倒的に多い。日本は薬剤師国家試験で統一されているのに対しアメリカは NAPLEX(薬学知識の試

験)と CPJE(州の法規試験)や卒後の進路の選択肢が多い。日本では医師>薬剤師のような風潮があるが、アメリカの薬剤師が医師と同程度で社会的地位が高いと評価されるのは専門性がより高いことや役割の多さが関係しているのではないかと感じた。報告書にて触れていないが、これは薬学教育の違いが選択肢の多さに関係していると考えられた。

臨床薬剤師(Clinical Pharmacists)について

化学療法薬剤師、抗生物質薬剤師、集中治療室(ICU)薬剤師、オペレーティングルーム(OR)薬剤師、救命救急センター(ER)薬剤師、Transitions of Care(TOC)薬剤師などの職種がある。上記の薬剤師になるためには薬学部を卒業し、ライセンスが必要である。日本の専門薬剤師と似ている。特に TOC 薬剤師は興味深く、院内・外来の知識が必要な薬剤師である。患者が自宅から病院へ行きその後 ICU やその他の科への移動中にエラーが多いため、 Medikation エラーが起こらないように努めるのが TOC 薬剤師である。この様に病院薬剤師の中の臨床薬剤師だけでも役割が違い、全ての薬剤師が日本の薬剤師の様に企業勤務や調剤や指導をするわけではなくたくさんの役割がある。更に院内薬剤師も役割が違う。調剤はテクニシャンが行うため、薬剤師が調剤業務は行わない。この様に薬剤師の業務は専門性が高く多岐にわたる。

感想

実際に施設見学や授業に参加してみて、個性と自己主張の大切さも学びました。身なりに関して、アメリカはとても自由で日本の薬剤師と比べた時日本人の真面目さを感じました。しかしこの真面目さが海外の人への信頼に繋がっているのかもしれない。

自己主張について日本では授業中にディスカッションやプレゼンテーションは特定の授業でしか行いません。また現地の学生は積極的に授業時に質問をし、逆に質問がないことの方が珍しい様子でした。このスタイルに慣れるよう誘導してくれた先生方は頻繁に質問は無いかと学生に聞き、今回参加した学生の殆どが1度は質問をしたのでは無いかと感じました。とても新鮮な雰囲気の中で楽しく学ぶことができ、これは円卓の様な座席とディスカッションがきっかけだと思います。

ドラッグストア見学にて、調剤室からドライブスルーで薬を受け取っているのを見て驚きました。日本でも調剤薬局のドライブスルーがあることは知っていたけれど、ドラッグストアでも普及されていることを知りました。これはリフィル処方箋がアメリカでは一般的であることが大きいと思いました。

この研修を通してアメリカの薬剤師や医療制度をはじめ、授業や学生の雰囲気など多くのことを学ぶことが出来ました。どちらの国にも良い点があり、比較をしながら学ぶことで興味深い学びとなりました。2週間アメリカ研修に参加させて頂きありがとうございました。

